

Graphics with Processing



2010-01 Processing

<http://vilab.org>

塩澤秀和

1.1 Processing

Processingとは？

□ 特徴

- グラフィックに適した手軽な言語
(C/C++でCGをやるより簡単)
- 芸術家などコンピュータの専門家でない人に配慮
- 文法はJavaとほとんど同じ
(実体はJava+“便利な機能”)

□ Webサイト

- <http://processing.org>
- Exhibition(展示室)は必見

□ 今後役に立つの？

- OpenGL, DirectX (C/C++)
でも考え方は同じ
- Javaのライブラリとして使える

参考資料

□ インストール方法

- 1.4 演習課題の手順に従うこと

□ サンプルプログラム集

- File → Examples

□ マニュアル

- Help → Reference

- 日本語訳

[http://www.technotype.net/
processing/reference/](http://www.technotype.net/processing/reference/)

□ 参考文献

- 『Built with Processing デザイン/
アートのためのプログラミング入門』,
前川, 田中著, (株)BNN
- 『ビジュアライジング・データ —
Processingによる情報視覚化手法』,
Ben Fry著, オライリージャパン

1.2 簡単なプログラム

プログラムの基本構造

□ サンプルプログラム

- Examples → Basics → Structure → SetupDraw
- コメントはC++やJavaと同じ

□ void setup()

- 初期設定関数(メソッド)
- プログラム開始時に、自動的に1回だけ実行される

□ void draw()

- 描画関数(メソッド)
- 画面上で描画をする必要があるときに自動的に実行される
- アニメーション(loop)の場合、繰り返し何回も実行される
- 他にも再描画が必要なとき実行

基本的なsetup処理

□ size(幅, 高さ)

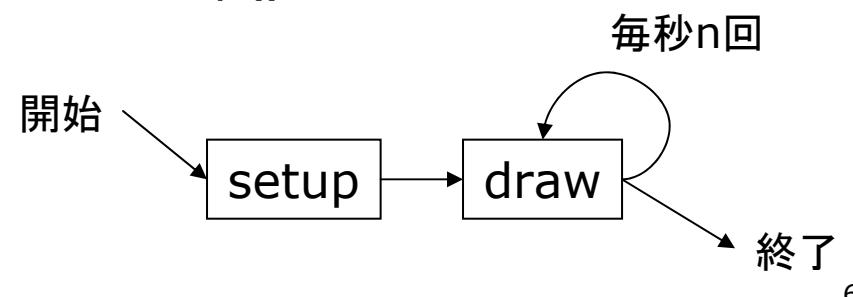
- ウィンドウを開く
- setupの最初に必要

□ frameRate(回数)

- 1秒間あたりの描画コマ数
- アニメーション(動画)に利用
- 省略した場合は毎秒60コマ

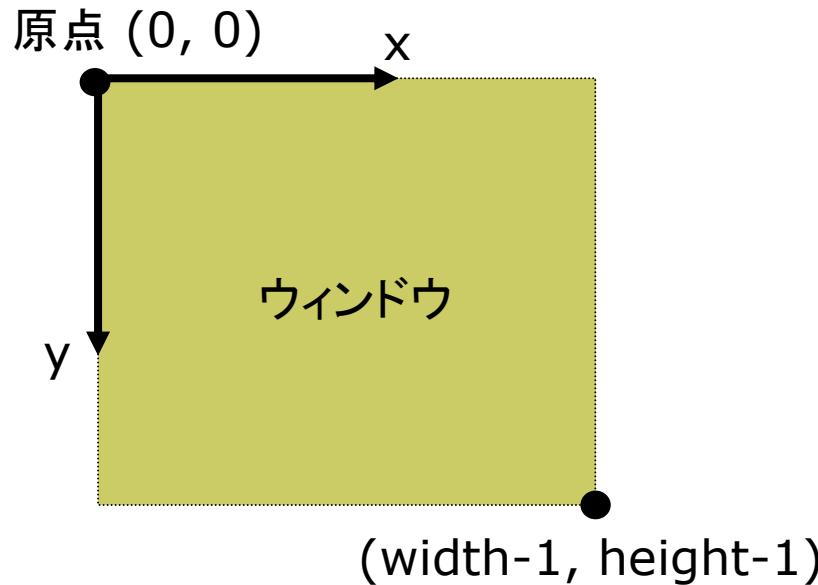
□ noLoop()

- アニメーションを無効化する
- loop()で解除できる



1.3 基本的な描画

Processingの座標系



色の数値表現

- 白黒(グレー)
 - 0～255の整数
- カラー
 - 0～255の整数(RGB) × 3個
 - 例: `stroke(r, g, b)`

描画の準備

- `background(色)`
 - 背景色でウィンドウを塗りつぶす
 - 通常, `draw`の最初にやる
- `stroke(色)`
 - 線の色を指定する
- `strokeWeight(太さ)`
 - 線の太さを指定する

基本図形

- `point(x座標, y座標)`
 - 点を打つ
- `line(x1, y1, x2, y2)`
 - 直線を引く
- `rect(x, y, 幅, 高さ)`
 - 長方形(矩形)を描く

1.4 演習課題

Processingのインストール

- ダウンロード
 - <http://vilab.org/cg2010/>
 - Javaセット版(推奨)
processing-1.2.1.zip
- 起動
 - ZIPを適当な場所に展開して,
processing.exe を実行
 - ユーザ名が日本語だとダメかも
- 機能
 - (>)ボタンでプログラム実行
 - [↓]=保存, [↑]=読み込みなど
- 課題
 - サンプルプログラムを参考にして、簡単な図形を描いてみよう

課題の提出練習

- 提出URL
<http://vilab.org/upload/cg-upload.html>
- 提出方法
 - フォームにクラス・番号等を入力
 - 参照でソースファイルを選択
(マイ)ドキュメント¥Processing¥スケッチ名¥スケッチ名.pde
 - ファイルの種類は「pde」のまま
 - [送信]を押して提出
- 確認方法
 - フォームにクラス・番号等を入力
 - ファイル欄を空欄のまま[送信]
 - 提出したプログラムがあればOK